

日刊 動労千葉

1988.1.5

No. 2732

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

館山支部大会開催 更に団結固め 闘争体制を強化する

館山支部定期大会は、十二月二十六日十四時から、館山市静海荘において、代議員・傍聴者約五十名を結集して盛大に開催された。
大会は清算事業団の塩崎特執の司会で、赤羽根副支部長の開会のあいさつのもと、和田政幸代議員を議長に選出して進められた。

館山支部は更に団結を固め 闘争体制を強化する

支部を代表してあいさつに立った笹生支部長は「館山支部は、国鉄分割・民営化阻止を掲げ、今まで闘いぬいた。四・一以降八ヶ月経過したが、国鉄時代の矛盾は何一つ解決していない。労働運動解体攻撃だけが進行し、くわえて更に『六三・三』には大合理化を強行しようとしている。職場ではアゴヒモ・カーテン・服装に至るまで、些細なことにもまで締めつけを強め、労働者を奴隷化しようとしている。館山支部は更に団結を固め、職場闘争を強化し、清算事業団・営業配転者の原職奪還のために闘いぬこう」と訴えた。

地域から闘う労働運動を つくりあげよう

安房地区労連田議長があいさつ

続いて、来賓として出席した辻田安房地区労議長（館山市議）は、「四・一国鉄分割・民営化」は政府・当局の方針どおりやられた。総評は三千万五百万署名運動をやったにもかかわらず、ストライキ一つ打てずにこれを認めた。総評の指導力の低下を物語るものであり、その総評がいまや解体しようとしている。全労連では労働者の生活は守れない。労働界は戦国時代を迎えている。県内でも、幾つかの地区労で、地区労働運動を守ろうという動きが出て来ている。社会党においても地域に根ざした運動を創ろうという動きが出てくる。動労千葉が、一年もたたず崩壊するだろうといわれながら、分離・独立後、地域に根ざした運動を展開し、分割・民営化攻撃の中で組織を維持し闘

いぬいているその先見性と団結力に敬意を表する。安房地区労は、中央・県の方針もあるが、安房に根ざした運動を創り上げたい。経験を積んだ組合として、動労千葉の協力を要請する」と述べた。

「必要な議論を」ライキをも うちぬこう」

続いて、本部を代表して中野委員長による「当面の情勢と動労千葉の闘う方針について」三〇分にわたって提起をうけたあと議事に入った。赤羽根副支部長による一般経過報告および運動方針の提起、小沢書記長による決算報告および予算案の提起、その他サークル協、生活部、家族会等の収支報告ならびに会計監査報告をうけたあと、質疑に入った。質疑では、アゴヒモ・カーテン・グリーンパッチ・服装攻撃に対する闘い、いすみ鉄道出向問題、組織体制強化の取り組みなどが出されたが、労働者を傷みつけ、いたぶり、論理も何も無い、ただ屈服させることのみを目的とするJR当局の不当な攻撃に対して、歯止めをかける闘いの必要性が訴えられ、これらを理由とした五ヵカ月の攻撃に対しても、皆んなで救済するだけでなく、法的措置を含め、必要ならストライキをもって闘うべきであると強調された。これらに対する本部・支部の答弁を受けたあと、支部長の団結ガンパロー三唱をもって十七時二〇分、大会は成功裡に終了した。

▲新役員▼

支部長	笹生 亘
副支部長	赤羽根 昭 男
書記長	渡 辺 敏 博
書記次長	小 沢 智
執行委員	加 藤 幸 男
”	安 西 信 一
”	石 井 政 雄
”	佐 藤 昭



今年も全力でがんばる決意です。柳指導の
ほどよろしくお願いたします。各支部よりの
柳意見・柳批判・投稿をお待ちしています。

日刊動労千葉編集委員会